

- 広域避難者支援連絡会 in 東京では、2018年9月、第17回広域避難者支援ミーティング in 東京（以下、第17回ミーティング）を実施し、様々な支援団体とともに、復興・創生期間が終了した後の広域避難者への支援のあり方について検討を行った。
- 第17回ミーティングの参加者からは、制度的な支援が終了することにより、「場の減少」や「経済的な困窮」「孤立化」「孤独」「情報が得られない」などの課題がより深刻化するという意見が出され、今後、地域・広域でどのような支援をするべきか悩んでいるという声も聞かれた。しかし、第17回ミーティングは当事者団体からの参加が少なく、当事者自身の意見を十分に知ることができなかった。上記課題に取り組むためには、民間団体による支援だけでなく、当事者ととも課題を共有し、取組みを進める必要があると声があがった。
- そこで、今回、第18回広域避難者支援ミーティング in 東京として、当事者団体のみでのクローズドミーティングを企画し、復興・創生期間後の課題や今後の長期的な支援のあり方について、意見交換を行う場を設けた。

1 日時 平成30年11月26日（月） 午後2時00分～4時40分 （午後1時30分会場）

2 場所 東京都生活協同組合連合会3階会議室  
〒164-0011 東京都中野区中央5丁目4-1-18

3 参加者数 37団体49名  
うち、当事者団体6団体8名  
支援団体11団体16名（行政含む）



4 内容

#### プログラム1 報告・話題提供

<第17回広域避難者支援ミーティング in 東京の報告>

報告者 広域避難者支援連絡会 in 東京（東京足湯プロジェクト） 金子和臣さん

<当事者団体からの情報提供>

各当事者団体の代表者から、団体名、活動内容、メンバー数、主な活動エリア、活動頻度や現在の悩みや感じていることを報告してもらい、情報交換の時間としました。

#### プログラム2 グループによる意見交換

<福島県、宮城県による情報提供>

報告者 福島県企画調整部 避難地域復興局 避難者支援課 栗山光さん

宮城県東京事務所 県外避難者支援員 山本早苗さん

福島県、宮城県のお二人には、当事者団体につながっていない避難者の方で、今後も支援が必要なケースについて報告をしていただきました。

## <グループワーク>

グループワークでは、当事者団体と連絡会に別れ、議論を行いました。各グループには、連絡会のメンバーを進行役と記録役で2名ずつ配置しました。

### ●避難当事者グループでの意見交換内容まとめ

当事者団体のグループワークでは、2019年1月20日（日）に開催する交流会で議論を行うテーマについてキーワード出しを行いました。

キーワードは全部で3つ。自然体で話をするを前提としたいということになりました。

①2020年度に復興庁がなくなる。支援が少なくなる、あるいは全くなる。そのような状況の中で、皆が何を考えているのか聞きたい。

- ・支援がなくなることに対し、それぞれで思っていることは山ほどあると思う。継続させるべきなのか、なくなっていいのかといった点を切り口としてみてはどうか。
- ・県内に帰還した人へと、県外に避難している人では支援の差が大きくあることも事実である。（高速道路無料化が終了するなど。今まで無料だから避難元の様子をうかがうことができていた。有料になると足を運びづらくなる。）
- ・支援の手がなくなっていく中で、参加者が感じていることを“自然体”で話し合いたい。

②今現在、避難元の地域（福島・宮城・岩手）や避難者の間ではどんなことが起きているかの情報が広域避難者に十分に届いていない。現地の情報をしっかり知りたい、話し合いたい。

- ・現地の様子がどうなっているのか知りたい。何が本当か分からないままでは、帰還は出来ない。
- ・現地の情報が届かない中でも、「なぜ避難元へ帰らないのか」と言われることもある。帰還を決める決定的な情報が手元にない中では判断が出来ない。
- ・参加者一人ひとりが持っている事例が出てくると良いかもしれない。一部の情報しか届いてなくて、何が本当か分からない。そういう場を持てたらよいのではないか。
- ・知っている現地のこと、お互いのことを“自然体”で話すことができたなら良い。（避難元の地域ごとでグループを作って話し合いたい。）

③避難元の地域に戻ることを考えているか、ということの本音を聞きたい。一步踏み込んだ質問だが、こういった機会に参加者の心の内を聞きたい。

- ・避難から長い時間が経ち、現地の情報を伺うと、避難元への帰還は無理なのではないかと感じている人がいると感じる。しかし、「帰らない」と言うと「復興のじゃまをするのか」と非難されることがあるのも事実。そのような非難をされることを考えると怖くて言えなくなる。
- ・避難者が苦しい生活をしていることを伝えるのではなく、これからの生活の話の本音を聞きたい
- ・交流会では、「本音」で今後の生活を話し合えるように一步踏み込んだ議論がしたい。

④その他

- ・避難者の元には、「帰ってきてほしい」というメッセージが多く届いている。しかし、住宅の整備など、（福島の場合は原発のことなど）それなりの安全確認をしてほしいということも前提としてあげたい。（野生動物の問題や、インフラなど懸念事項はたくさんある。）

●連絡会グループでの意見交換まとめ

テーマ	意見やキーワード（一部抽出）
① 連絡会の特徴について	<p>○地域のつながり ○広域でのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都域の取り組みが特徴</li> <li>・当事者団体との声をもとにした共催イベント</li> <li>・様々な企画をするときに必ず当事者に相談して進めている</li> <li>・大規模なふれあいフェスティバルの開催</li> <li>・大きな補助金の獲得</li> <li>・都内外の他団体とのネットワークができたこと</li> <li>・個別の団体では避難者支援をしていない団体が入っている</li> <li>・多様な団体との情報共有が得られた</li> <li>・多様な団体の集合体であること</li> <li>・バディ制による当事者団体の把握、取りまとめができています</li> <li>・他団体は同じ目標を持つ人たちのあつまり。連絡会は様々な目標のある団体が集まってそれぞれの知恵を出し合っているネットワークが厚い。</li> <li>・支援団体、避難者団体の人がざっくばらんに話し合う場がある</li> <li>・地域外の情報を知ることができる</li> </ul>
② 連絡会に関わって良かったこと	<p>○ネットワークづくり ○地域、団体、会員へ避難者への周知、支援につながる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他団体とのネットワークが広がり、情報交換がしやすくなった</li> <li>・各地域にいる避難者をつなげる</li> <li>・T V A Cの広報誌、「ネットワーク」で当事者団体の連載ができた</li> <li>・避難者を講師に、地域に知らせることができた</li> <li>・今も東日本の支援をしたい個人、団体をつなげられている。リソースの把握ができています。</li> <li>・地元の情報の入手</li> <li>・広域のふれあいフェス、避難者も支援者もここに参加すれば出逢いがある</li> <li>・サロンでは見せない避難者の一面が、ふれあいフェスティバルを通して見られたこと</li> <li>・自団体意識の向上</li> <li>・連絡会の情報を当団体加盟組織へ紹介できている</li> <li>・東京都の要請を継続して行っている</li> </ul>
③ 連絡会の課題	<p>○連絡会としての役割 ○予算・財源確保、個別課題への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者団体につながっていない人をどうするか。どこまで対象とするか</li> <li>・孤立をしている避難者への支援、アプローチをやるべきか否か</li> <li>・生活困窮など、個別課題の精査</li> <li>・避難者から定住者に変化した、その方たちをどうするか</li> <li>・個人の要求には応えられない</li> </ul>

テーマ	意見やキーワード（一部抽出）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主財源の確保</li> <li>・ 支援いただいている団体もあるが、助成金が大半を占める</li> </ul>
④ 今後も継続すべきこと	<p>○より広範囲の交流の場、つながりの拡大、風化させない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続した避難者情報の発信</li> <li>・ 当事者サロンの支援</li> <li>・ 今できていることを続けること</li> <li>・ 情報支援、共有の場など、定期的な連絡会は継続すべき</li> <li>・ 交流の場の提供</li> <li>・ 当事者団体との共催イベントの実施</li> </ul>
⑤ 今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な地域・団体とのネットワーク作り</li> <li>・ 地域住民との橋渡し</li> <li>・ 地元の団体と当事者団体とのつながりづくり</li> <li>・ 広域避難に関係のない人、団体に周知度が少ない</li> <li>・ 連絡会の社会的認知度の向上</li> <li>・ 新しい当事者との出会い</li> <li>・ 支援団体の把握が不十分</li> <li>・ 行政への提言</li> <li>・ 区市町村を超えた交流の取り組み</li> <li>・ 支援団体への参加の呼びかけ</li> <li>・ 避難者の方の活動の後継者の確保</li> <li>・ 震災の風化防止</li> </ul>



5 主催 広域避難者支援連絡会 in 東京

6 問合せ 広域避難者支援連絡会 in 東京

(事務局) 東京ボランティア・市民活動センター 担当：加納、阿部、神辺  
 電話 03-3235-1171 FAX 03-3235-0050 メール kouikihinan@tvac.or.jp



以上